

検定試験の自己評価シート

自己評価実施日：平成26年10月1日～11月29日

検定事業者名：特定非営利活動法人日本語検定委員会

検定試験名：日本語検定

【5段階評価の目安】

A：十分達成されている B：おおむね達成されている C：一部達成されている D：あまり達成されていない E：ほとんど達成されていない

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
		<p>【評価の視点】 組織としての理念・目的が明確であり、検定試験を継続的・安定的に実施するために必要な組織体制や財務基盤を有するとともに、実施主体自身がPDCAサイクルに基づき、組織的・継続的に事業を改善していく組織となっていること。また、受検者や利用者(学校・企業等)への適切な情報公開と個人情報の保護がなされていること。</p>				
1 実施主体	① 組織	1	○検定試験を実施する組織としての理念や目的が明確である。	当法人は、日常生活のなかで、日本語を正しく運用する能力や思考力を育み、人と人との関係性をより円滑にすることにより、日本文化の発展と社会教育の推進に寄与することを目的とする。その目的を達成するために、公益的・非営利活動として日本語検定を実施している。 【特定非営利活動法人日本語検定委員会の設立にあたって】 http://www.nihongokentei.jp/greetings/organization/greeting.html	A	特定の公益・非営利活動を通して社会貢献するNPO法人として、PDCAサイクルに基づき、組織的・継続的に事業を改善していく。
		2	○検定試験を実施することの社会的使命が明確である。	日本語検定は、小学生から社会人までのすべての人にとって「生涯学習の場」として、自分自身の日本語をとらえなおす機会を提供する。また、日本語検定によって日本語に関する知識と日本語を正しく使うための能力を身につけることができ、人と円滑にコミュニケーションをとることができる。その結果として、社会全体のコミュニケーションを活性化することができる。当法人は、より豊かな社会を創ることの一助となるべく日本語検定を実施し、地域住民、企業、自治体、NPO法人、学校、家庭などと積極的に連携して、より有益な活動を展開していく。	A	
		3	○検定試験を実施する組織(役職員体制、事務処理体制、作問体制、危機管理体制等)が、検定試験の目的、使命を達成するための組織として適切に構成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■役職員体制、■事務処理体制、■作問体制、■危機管理体制 ■その他(審議委員会、評価委員会) 役員体制：役員は理事と監事で構成され、「定款」「理事会規定」等に従って検定事業全般を運営している。 事務処理体制：理事会の指示に従って、委員会事務局が、①運営管理、②受検者対応(コールセンター)、③会員様対応、④広報、⑤製造・物流管理等を実施している。 作問体制：問題作成委員会を設置し、問題内容等の分析、問題作成を実施する。 危機管理体制：不測の事態に備え危機管理マニュアルを作成し、検定回ごとに改定している。 その他：理事会の諮問機関である審議委員会、委員会事務局の作成した自己評価シートの内容を精査する評価委員会を設置している。	A	
		4	○手続等に関する問い合わせ、試験後の問い合わせ先が設置され、受検願書やホームページ等に適切に公開されている。	問い合わせ等については、委員会事務局で対応し、問い合わせ先は、パンフレット、募集要項、ホームページ等で案内している。 電話0120-55-2858(平日9時30分～17時)、FAX 03-5390-7454 メールinfo@nihongokentei.jp ホームページ http://www.nihongokentei.jp/	A	

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
1 実施主体	② 財務	5	○目標(Plan)－実行(Do)－評価(Check)－改善(Action)というPDCAサイクルに基づき、組織的・継続的に事業を改善している。	①Plan(目標・計画)前回及び過去の実績、実施した時の改善点、将来の予測などをもとにして、次回の方針・業務計画・運営計画を立案。②Do(実行・実施)方針・業務計画・運営計画に沿って実際の業務を実施。③Check(点検・評価)日々の業務を点検し、検定が終了した時点で、再度すべてを点検する。また当法人内で点検のための会議、個人受検者及び団体責任者へのアンケート等を実施する。特に、受検者を実施したアンケートを重視し、それらを集約した改善点を理事会で協議する。④Action(処置・改善)理事会で了承された改善点を、次回の計画に反映させる。	A	今後も内部監査、外部監査をさらに充実させていく。
		6	○実施主体の財務経理情報を備えている。(検定試験を継続して実施している場合には、複数年分。) (財務経理情報の例) 収支計算書、貸借対照表、財産目録等	NPO法人としての財務経理情報を委員会事務所に備えている。 ■備えている(年度別収支計算書、貸借対照表、財産目録等の事業報告書) □備えていない 東京都の「法人団体詳細情報」に掲載されている。 【東京都:法人団体詳細情報】 http://www.npo.metro.tokyo.jp/	A	
		7	○財務経理担当者等に対する内部牽制体制が確立されている。	入出金については複数の経理担当者が役割分担の上、検収し、不正・誤りを防止する体制を整えている。諸々の判断が必要な場合には、税理士に確認し、監事は定期的に帳簿等を検収している。	A	
		8	○財務経理に関して、定期的または適宜監査を受けている。	定期的な監査を受けているが、今後は、さらに外部監査を強化していく。 ■受けている(■内部監査 ■外部監査 □その他) □受けていない(理由:)	A	
		9	【公益性のある実施主体の場合】 ○検定事業とその他の事業との関係や財務経理情報等の区分けが明確である。	非収益事業と収益事業を区分した会計を実施し、明確にしている。	A	
	情報公開③ その他 個人情報	10	○情報公開する項目や方法などを明確に定めている。	「特定非営利活動促進法」に基づき情報公開の方向性を決定し、情報公開を実施している。ただし、具体的に情報公開する項目や方法を定めた規定設けてない。	B	情報公開に関しては、受検者に有用な情報提供に努めていく。個人情報の保護に関しては、平成24年5月15日にプライバシーマークを取得している。
		11	○受検者の個人情報保護に関する方針やマニュアル等が整備されている。	平成24年5月15日にプライバシーマークを取得しており、それに従って「個人情報保護方針」を規定し、ホームページで公開している。また、個人情報保護マネジメントを確立、実施、維持し、「個人情報管理規定」「個人情報取扱規定」等の規定を定めている。また、個人情報保護に関する従業員教育を実施し、マニュアルも整備している。 【個人情報保護方針】 http://www.nihongokentei.jp/site/guide/persdata.html	A	
	【評価の視点】 検定試験の目的や内容が明確であり、これらと整合する適切な測定手法や審査・採点の基準等を有すること。					
	① 目的	12	○どのような知識・技能を測るかという検定試験の目的が明確である。	個々人の成長(発達)段階にあわせて、小学生から社会人までの日本語を運用する能力や知識を6つの領域(敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字)で測定する。 【日本語検定とは】 http://www.nihongokentei.jp/about/aboutnk/about.html	A	

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
2 実施内容	② 内容	13	○検定試験の内容が以下の点で明確で、検定試験の目的にかなっている。 ＜検定試験で測る具体的な知識・技能とその水準＞ 領域(分野)／対象層(受検資格等)／試験範囲／難易度／その他(特色等)	①領域(分野)は、日本語の総合的な運用能力を測るため、敬語、文法、語彙、言葉の意味、漢字、表記の6領域から出題。級は、1級～7級で各級に受検の目安を設定している。 【日本語検定とは】 http://www.nihongokentei.jp/about/aboutnk/about.html ②対象は、小学生から社会人までを対象にした検定試験で、受検資格は特に設けていない。 ③試験範囲は、出題基準に基づいているが、特に、児童・生徒が対象になっている級については、学習指導要領を意識し、漢字(教育漢字など)は学年を想定して使用、出題している。 ④難易度(合格率)は、検定回ごとに、級別の受検者数、受検者の属性の構成率、級別の認定率(合格率)をホームページ、パンフレット、機関紙「ごけん」、メールマガジン等で公開している。 【受検のご案内】 http://www.nihongokentei.jp/info/exam/outline.html	A	受検者が受検級を選択する場合の目安をさらにわかりやすく改善していく。
		14	【学校の単位認定や進学、就職等の際に活用される検定試験の場合】 ○当該検定試験と学校教育や職業能力との関係性が示されている。	検定級ごとに、小学生から大学生までの日本語力の目安を示している。また、児童・生徒が対象になっている級については、学習指導要領に基づいて出題しており、単位認定時の参考にしてもらう。また、主に社会人が対象である3級～1級については、社会人として必要な日本語の運用能力を身につけられるように考慮している。ただし、今後も、より受検者にわかりやすく改善していく。 【評価する学校】 http://www.nihongokentei.jp/about/aboutnk/list_appreciate.html	A	
		15	【学校教育で活用される検定試験の場合】 ○学習指導要領等に準拠していることについての明確な説明等がなされている。	児童・生徒が対象になっている級については、学習指導要領に配慮した出題を意識しており、例えば、漢字(教育漢字など)は学年を想定した上で使用し出題している。	A	
2 実施内容	③ 手段	16	○知識・技能の測定手法(筆記試験、CBT試験、実技試験、面接試験等)、審査・採点の基準が適切である。	「合否基準の決定及び合否判定についての規定」を定めている。合否判定は、問題作成委員会内で、合否判定の判断材料となる成績資料を分析し、過去の検定結果と比較しながら、「合否基準案」を作成する。その後、審議委員による「合否判定会議」を開催し、問題の難易度と受検者の級別正答率を検証し、過去の検定結果も考慮して「合否基準」を決定して「合否」を判定する。	A	問題分析の結果は次回の検定問題を作成する際に活用している。また、問題内容の質を確保するために、毎回、継続的に改善を図る必要があり、新しい分析手法も研究している。
		17	○試験結果から得られるデータ等に基づき、検定試験の内容や測定手法、審査・採点基準等について、質の確保や継続的な改善を図っている。	検定回ごとに、出題した問題について、受検者の解答データを用いた問題分析を行う。過去の出題データを利用して新規の検定試験を組み立てることにより、回を隔てた問題の内容・難易度の等質性を確保する。また、分析内容としては、①検定試験の信頼性・妥当性・等質性を検証、②小問ごとに項目分析を実施し、データを蓄積し、今後の出題指針とする。この分析は問題作成委員会が実施、審議委員会に報告し、理事会で承認を得る。	A	
【評価の視点】 事前準備、事後対応を含め、適正かつ公正で透明性の高い検定試験の実施体制を有するとともに、受検手続を明確にした上で目的や内容、規模等に応じた適切な取組を行っていること。						
		18	○試験の実施規則・要項等の受検手続が定められている。	検定試験の実施要項、パンフレット、団体手引き、ホームページで、受検手続きについて説明されている。 【受検のご案内】 http://www.nihongokentei.jp/info/exam/outline.html	A	
		19	○試験実施前の情報管理対策(情報管理マニュアルの整備や担当者への研修・注意喚起など)が講じられている。 (例) 試験問題、解答等の作成、印刷、搬送、保管	各検定回ごとに試験問題の漏洩を防止する「試験問題の編集作業、印刷、搬送、保管、実施」まで一貫した管理体制をとり、検定回ごとに関係者間でセキュリティ保持のため、密接に連携をとりながら運営している。一般会場運営の責任者、監督等に対しては、事前に実施マニュアルを送付するとともに、試験当日の監督官には別途、研修・適格テストを実施している。	A	

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
3 実施 手続	① 事前 準備	20	○受検者に対し十分な出願期間が確保されている。	検定申込期間は出願決定まで約二カ月と十分な期間を設定している。	A	検定回ごとに、受検者にとってわかりやすく利便性のある受検手続きを目指し、改善に努める。 また、インターネット利用者が増加していることを受け、ネットからの申込み方法について、受検者にとってより利便性を高めていくように改善する。
		21	○受検料の適正性・妥当性について点検・検証されている。	実際の受検料金は、検定試験が公正・公平に継続して実施できるための費用が賄えることを前提として、大学生以下の児童、生徒、学生に負担がかからないように配慮している。但し、今後も受検料の適正性・妥当性については継続的に点検・検証していく。	A	
		22	【学校の単位認定や進学・就職等の際に活用される検定試験の場合】 ○児童・生徒等が不利益を被らないように、配慮がなされている。	単位認定、入試優遇する高校、大学、及び入社時に優遇する企業の情報は、ホームページ上で常に更新している。また、パンフレット、機関誌を通じて、広く告知するようにしている。 【評価する学校・企業】 http://www.nihongokentei.jp/about/aboutnk/list_appreciate.html ■全ての児童・生徒・学生に対して公平に情報提供されるよう配慮されている。 ■実施時期への配慮がされている。	A	
		23	○その他の特記事項等。	部活動の公式大会出場、進学または就職試験、学級閉鎖、学年閉鎖、学校閉鎖の場合、公共交通機関の途絶、学校行事との重複、忌引欠席などについては、受検機会を次回に繰越する措置または返金措置をとっていたが、震災等の影響も考慮して、返金する措置にしている。	A	
3 室	② 討	24	○試験監督業務のマニュアル等が定められており、試験実施会場・機関に事前に配付されており、試験監督者等の共通理解が図られている。	「一般会場運営マニュアル」と「準会場実施マニュアル」を作成しており、内容は検定回ごとに改善している。また、一般会場の監督官、監督補助者に対しては事前教育と適格テストを実施している。	A	受検者の利便性を重視し、より受検しやすい準会場、一般会場の設置に努め、検定回ごとに改善を図る。また、同時に、試験実施の公平性・厳格性を維持していく。
		25	○受検者の本人確認は、顔写真を添付した受験票の用意や身分証による照合など、本人確認が確実に行われるよう講じられている。	1級、2級受検者には、受験票への顔写真貼付を義務付けており、本人確認を実施している。ただし、他級も顔写真貼付を義務付けるかについては検討していく。	A	
		26	○試験当日、天災や交通機関の遅延等があった場合には、試験開始時刻の変更や再受検の容認など、受検機会が確保について配慮されている。	検定試験当日は、本部と各会場の責任者が直接連絡を取りながら運営しており、台風などの気象条件、震災、公共交通機関の遅延等が生じた場合には、試験開始を遅らせて実施する等の処置を講じている。またやむを得ない事情で大幅に遅刻することが事前に判明した場合には、別室を設ける等、受検できるように配慮している。	A	
		27	○障がい者について、検定試験の目的や内容、規模等に応じた一定の配慮が考慮されている。	障がい者に対しては、申し込み時に個人情報に留意しながら状況を確認し、一般会場で最適の環境で受検できるように配慮している。案内掲示の工夫、拡大した問題用紙の準備、視覚障害用機材の持ち込み、車椅子での受検、障害の程度による検定時間の延長などで対応している。現在、点字についても検討しているが、問題内容の面で技術的な問題があり、検討中である。また、特別支援学校・学級、福祉施設、院内学級、障がい者就労支援施設等が団体で受検する場合、また、それ以外でも該当する受検生がいる場合には、1名から準会場試験実施を認める等、柔軟に対応している。	A	

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
実施 手続	試験 実施	28	【試験監督者の外部委託等を行う場合】 ○外部受託者等(法人・個人等)を総括する責任者が配置されている。	委託する法人は、検定回ごとに、厳格に選定している。また、委託先の内部に総括する責任者がおり、すべての試験監督官・補助者の事前教育、当日の運営、事後の報告等を義務付けている。	A	
		29	【試験監督者の外部委託等を行う場合】 ○受検手続きに関する共通理解を図り、円滑に試験監督業務を遂行できるよう試験監督者への説明・研修が実施されている。	外部委託する法人に対しては、当日の試験監督官・補助者へ「試験監督官マニュアル」で事前研修を実施している。試験監督官には、「監督官として適切であるかの適格テスト」と「面接」を実施し、合格者のみ試験監督として採用している。	A	
		30	【児童生徒や学生を対象とした検定試験の場合】 ○受検者の利便性確保の観点から、公平性を保った上で、試験実施会場として学校や民間教育施設等が活用されている。【期待】	所属する学校・団体を会場として活用する準会場制度を設けている。現在、準会場は5名から成立するように改訂している(以前は10名)。	A	
		31	【試験実施会場として学校や民間教育施設等を活用している場合】 ○公平性・公正性が確保(試験日、試験監督の体制、試験会場に試験に関する掲示物が無いか等)されている。	所属する学校・団体で検定を実施する場合は、事前に「準会場申請書」を提出してもらい適切な運営が実施できることが判断できた場合に許可し、「日本語検定 準会場実施規程(昨年度改訂)」に従って実施することを義務付けている。	A	
		32	○その他の特記事項等。	試験の運営状況、会場状況については、アンケート調査で、受検者からの指摘、要望を確認しており、次回実施時に反映させている。また、昨年度から、一般会場での受検者の怪我等に対応するための保険に加入している。	A	
3 実施 手続	③ 事後 対応 等	33	○試験結果に関する一般情報(受検者数及びその構成、合格者数、合格率等)が、適切に公開されている。	検定回ごとに、パンフレット、ホームページ、機関紙「ごけん」で、受検者数及びその構成、合格者数、認定率等を公開しているが、さらに受検者のニーズを把握し情報を公開していく。 【検定データ】 http://www.nihongokentei.jp/result/resultnk/data.html	B	受検者アンケート等から受検者のニーズを把握して、受検者にとって有用な情報を公開していくように努めていく。
		34	○受検者への学習支援の観点から、試験問題や正答が公開されている。 (ただし、試験の性質上、公開することができないものを除き、事後の作問等に影響を及ぼさない範囲で)	一般会場では検定問題を受検者が持ち帰れるようにしており、解答速報もホームページで実施日の3日後を目処に掲載、詳細な解説はホームページ上に検定実施後3週間をめどに掲載しダウンロードできるようにしている。インターネット環境がない受検者には、申請があれば、解答解説書を送るようにしている。また、問題例として、自分のレベルをチェックできるコーナーをホームページ上に設置している。 【問題レベルを選ぶ】 http://www.nihongokentei.jp/challenge/kentei_top.html	A	

4 検定 結果	【評価の視点】 検定試験の結果が、学習成果を示す指標として社会に適切に評価され、実際に活用されるため、検定事業者等において活用促進に向けた適切な取組を進めていること。					
	検定 結果	35	○検定試験の結果を証明する合格証や認定証等が発行されている。	合格を証明する「認定証」と「認定証明書」も発行している。記載事項は、受検者氏名、証明年月日、認定級、獲得した知識・技能の内容。	A	
		36	○合格証や認定証等が発行されている場合には、受検者が獲得した又は保持している知識・技能の内容が一見して判断し得る記載がある。	受検者氏名、証明年月日、認定級、獲得した知識・技能の内容を記載している。認定証のサンプルはパンフレットに掲載している。「認定証」と「認定証明書」のサンプルはホームページで公開している。【認定証・認定証明書】 http://www.nihongokentei.jp/about/aboutnk/about.html	A	

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
木の活用促進	成果の活用促進	37	○試験結果の活用に係るニーズを把握するための取組(受検者や利用者(学校・企業等)に対するアンケート調査等)が行われている。	検定実施ごとに、一般会場の受検者、準会場の団体責任者に対して無記名でアンケートを実施している。アンケート項目は受検動機、検定問題の内容、受検した効果、受検会場の運営等である。ただし、今後は他の方法も模索しながら、受検者のニーズを把握していく。	B	受検者アンケート等から受検者のニーズを把握して、受検者にとって有用な情報を公開していくように努めていく。
		38	○その他の特記事項等。	すべての受検者が、ホームページ上で、受検した級の解答解説を閲覧・ダウンロードできるようにしており、不正解だった問題に関しては、解答解説で確認できる。また、すべての受検者に送る「個人カルテ」には、領域別の弱点の克服法等を記載し、事後学習を支援している。 【個人カルテのサンプル】 http://www.nihongokentei.jp/about/aboutnk/about_pop.html	A	
5 継続的な学習支援	【評価の視点】 受検者の継続的な学習を支援するため、検定事業者等において適切な取組を進めていること。					
	継続的な学習支援	39	○段階的・継続的な学習をサポートする過去問題、類似問題などの参考となる資料が提供されている。	書籍として「日本語検定テキスト」、「練習問題集」、「過去問題集」、また、学校で教材として使用できる廉価なドリルなどが発行されている。企業向けには、eラーニング教材、企業・一般家庭向けに、提携団体が通信講座を用意している。ホームページでは、定期的に問題内容(検定問題に挑戦)を更新している。機関紙「ごけん」でも問題情報を提供している。団体から要望があれば受検対策講座を設定している。 【検定問題に挑戦】 http://www.nihongokentei.jp/challenge/kentei_top.html	A	学習支援する教材のラインナップを充実させるとともに、学習の進め方についてのわかりやすいガイダンスも作成していく。
		40	○学習意欲の促進のため、受検者の知識・技能レベルなどの情報を提供している。	すべての受検者に送る「個人カルテ」で、受検者自身の得点率、平均得点率、小問ごとの正解・不正解、総合及び領域別所見等が確認できるようになっている。また、受検級の目安をホームページ上に掲載している。 【受検概要】 http://www.nihongokentei.jp/info/exam/outline.html	A	
【評価の視点】 学習者や利用者(学校・企業等)に対して、パンフレットやインターネット等を活用して、検定試験の実施主体や目的、内容、規模等に関する情報が公開されていること。						
6 情報公開	1 実施主体	① 組織	○実施主体の「組織」に関する情報が公開されている。	東京都の「法人団体詳細情報」で詳細に公開しているが、当法人のホームページでも一部が掲載されている。 ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、■その他)…組織の理念・目的 ■公開(□web、□パンフレット、□募集要項、■その他)…組織規定(定款・寄付行為等) ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他)…組織体制(組織図、役員構成、事務処理体制等) ■公開(□web、□パンフレット、□募集要項、■その他)…組織内容(事業計画書、事業報告書等) ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…問い合わせ窓口(電話番号、電子メールアドレス等) 【組織理念】 http://www.nihongokentei.jp/greetings/organization/greeting.html 【東京都：法人団体詳細情報】 http://www.npo.metro.tokyo.jp/	A	組織・財務情報については、ホームページ上で確認しやすいように工夫していく。個人情報の保護についてはプライバシーマークを取得したが、さらに個人情報マネジメントシステムに従って、引き続き努めていく。
		② 財務	○実施主体の「財務」に関する情報が公開されている。	東京都の「法人団体詳細情報」で詳細に公開しているが、当法人のホームページでは詳細は公開していない。 ■公開(□web、□パンフレット、□募集要項、■その他)…財務経理情報(収支計算書、貸借対照表、財産目録等) 【東京都：法人団体詳細情報】 http://www.npo.metro.tokyo.jp/	A	

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
		③方針等	○実施主体の「情報公開や個人情報保護の方針等」に関する情報が公開されている。	「個人情報保護方針」をホームページ上に公開している。 ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…情報公開の方針 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…個人情報保護の取り組み(方針等) 【個人情報保護方針】 http://www.nihongokentei.jp/site/guide/persdata.html	A	
6 情報公開	2 実施内容	①目的	○検定試験の「目的」に関する情報が公開されている。	小項目ごとの情報公開の状況を簡潔に説明するとともに、情報公開の実態について、チェックを入れること。 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…検定試験の目的(コンセプト) 【目的(コンセプト)】 http://www.nihongokentei.jp/greetings/organization/greeting.html	A	日本語検定の「目的」、「内容」、「手段」の公開については、受検者に適切な内容をわかりやすく伝えるために、今後も改善していく。
		②内容	○検定試験の「内容」に関する情報が公開されている。	検定試験の「内容」については、ホームページ、パンフレット等で公開している。一般会場の実施状況はホームページで公開している。 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…検定試験の領域(分野) ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…特色 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…検定試験の対象者(受検資格等) ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…試験範囲 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…難易度(合格率等) 【日本語検定とは】 http://www.nihongokentei.jp/about/aboutnk/about.html 【受検のご案内】 http://www.nihongokentei.jp/info/exam/outline.html 【該当項目がある場合】 ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他)…学校教育・職業能力との関係性 □公開(□web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…学習指導要領等への準拠	A	
		③手段	○検定試験の「手段」に関する情報が公開されている。	募集方法については、パンフレット、ホームページ等で公開しているが、試験問題の作成方法、講座受講の情報については公開していない。 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…検定試験の測定手法(筆記試験(多岐選択式、記述式等)、CBT試験、実技試験、面接試験等) ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…審査・採点基準やその変更点 □公開(□web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…試験問題の作成方法 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…合格点・設問別配点等 □公開(□web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…講座受講の必要性及び関連情報(必要経費・受講時間数等) 【受検の流れ】 http://www.nihongokentei.jp/info/exam/flow.html 【個人受検】 http://www.nihongokentei.jp/info/application/kojin1.html 【団体受検】 http://www.nihongokentei.jp/info/application/dantai1.html	A	
		①事前準備	○検定試験の「事前準備」に関する情報が公開されている。	個人受検・団体受検等を公開し、事前準備から受検、結果通知までの流れを公開している。個人カルテは公開しているが、受検票、認定証明書は公開していない。 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…受験手続(実施規則・要項等) ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…出願期間・出願方法 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…受検料及び受検料以外に要する費用(合格証や認定証の発行手数料、登録料等) 【受検の流れ】 http://www.nihongokentei.jp/info/exam/flow.html 【個人受検】 http://www.nihongokentei.jp/info/application/kojin1.html 【団体受検】 http://www.nihongokentei.jp/info/application/dantai1.html	A	

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
6 情報公開	3 実施手続	② 試験実施	○検定試験の「試験実施」に関する情報が公開されている。	実施回ごとに試験会場となる都市の情報を掲載している。検定実施日の天災、交通機関遅延などで受検が困難な場合には、会場責任者と密に連絡して対応している。障がい者受検については、当法人として特例措置があり対応しているが、ホームページには公開していない。 ■公開(□web、□パンフレット、□募集要項、■その他)…天災や交通機関遅延等への対応方針 ■公開(□web、□パンフレット、□募集要項、■その他)…障がい者への配慮措置 【一般会場】 http://www.nihongokentei.jp/info/exam/outline.html	B	天災や交通機関、障がい者への配慮措置については実施しているが、受検者がわかりやすいように公開方法を工夫する。また、受検者が安心して受検できる
		③ 事後対応	○検定試験の「事後対応」に関する情報が公開されている。	検定試験の一般情報は初回からのデータを公開している。直近の検定試験問題の解答、解答解説については公開している。 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…試験結果に関する一般情報《受検者数及びその構成(年齢別、業種別等)、合格者数、合格率等》 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…試験結果に関する一般情報(経年) ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…試験問題と正答 【検定データ】 http://www.nihongokentei.jp/result/resultnk/data.html	A	
	4 検定結果の利用促進	検定結果の利用促進	○「検定結果の利用促進」に関する情報が公開されている。	パンフレット、ホームページで個人カルテ、認定証を公開している。学校、企業での活用状況については、パンフレット、ホームページで公開している。 ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他) 合格証や認定証等 ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他) 検定試験の結果活用に関する情報(学校・企業等での利用状況、合格者の活躍状況等) 【ビジネスで活用】 http://www.nihongokentei.jp/about/aboutnk/business.html 【就職前に】 http://www.nihongokentei.jp/about/aboutnk/recruit.html 【学力向上のために】 http://www.nihongokentei.jp/about/aboutnk/student.html 【外国籍のかたへ】 http://www.nihongokentei.jp/about/aboutnk/foreign.html 【評価する学校】 http://www.nihongokentei.jp/about/aboutnk/list_appreciate.html	A	受検者のニーズにあわせて検定結果の活用事例を充実させ、公開方法も改善していく。
	5 継続的な学習支援	継続的な学習支援	○検定試験の「継続的な学習支援」に関する情報が公開されている。	機関誌、メールマガジン、ホームページで、受検者に有用な情報を提供している。 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…各級等の設定(上位級との関係等) ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他)…過去問題・類似問題等の情報 ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他)…必要となる学習内容、合格までの標準的な学習時間 □公開(□web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…類似試験の有無や関係性・受検者(不合格者)の現状の知識 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…技能レベル ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他)…関連する学習機会に関する情報 【日本語検定問題に挑戦】 http://www.nihongokentei.jp/challenge/kentei_top.html 【教材の紹介】 http://www.nihongokentei.jp/info/text/text.html	B	合格までに必要となる学習内容について、受検者にわかりやすく伝えていくように努める。